

2022 年度 社会医療法人 同仁会 就職式 理事長あいさつ（全文）

新入職員の皆さん、入職おめでとうございます。皆さんのみみはらグループへの入職を心から歓迎いたします。

新型コロナウイルス感染症の対応も、今年で3年目に入りました。皆さんは、コロナ禍の中、大変な思いをしながら医療従事者・介護従事者になる準備をされてこられ、実習や送別会など十分に出来なかった方も多いかと思います。みみはらグループは医療と介護の協同事業体であり、コロナ対応のまさしく最前線にあたります。皆さんには、正しい対処法を医療・介護のプロとして学び、身に付けながら、私たちと共に適切な医療・介護を提供していただければと思います。みみはらグループの職員一同、皆さんを大切に迎え入れ、全力で成長をサポートします。わからないこと、不安なことなど、遠慮せずに指導者や先輩職員に聞いていただければと思います。

みみはらグループは、無差別平等の医療・介護・福祉・地域活動を総合的に提供し、安心して住み続けられるまちづくりを行う事業体として、堺から高石地域において「なくてはならない」役割を果たしています。1950年の耳原実費診療所から始まったこの無差別平等の事業は、今年で72年を迎えました。

私たちのコロナ対応は、この「無差別平等」の理念の実践そのものでした。私たちは、コロナ患者さんが医療機関に受診する権利を守るために、早い時期からグループ全体で受け入れを行なってきました。耳原総合病院は、非常に多くのコロナ患者さんを受け入れ、「断らない救急」を理念に、より医療体制が逼迫している地域からの救急車搬入を数多く受け続けてきました。また他の事業所では、コロナ患者さんの診療や投薬、往診、電話健康チェックとパルスオキシメーターの配布、介護の受け入れ、ワクチン難民への出張接種など、行政からも見本とされるような、一歩前に踏み出したコロナ対応を行ってきました。今年度も、皆さんの力もお借りして、安心してかかれる、利用できる、みみはらグループの事業所であり続けたいと思います。

同仁会では、2020年度から4つの同仁会ステイトメントの作成に着手しています。1つ目は「同仁会はジェンダー平等の社会を推進します」、2つ目は「同仁会は性の多様性を認め合う組織をめざします」、3つ目は「同仁会は互いを尊重し合い、ハラスメントのない職場づくりをすすめます」、4つ目は「同仁会は、平和・地球環境・人権を守る運動を現場・地域から広げます」です。コロナ対応で余裕のない中、人権を第一に考える取り組みを開始している組織であることを、私は誇りに思います。ぜひ、皆さんには「人権」というものへのアンテナを高く

張り、地域の方たちが抱える困難に寄り添って、医療・介護を提供できる職員になっていただきたいと思います。

最大の人権侵害と言える「戦争」が、現在起こっていることに、皆さんも心を痛めておられると思います。ロシアのウクライナ侵略は、国際法違反、国連憲章違反であり、断じて許してはなりません。いのちと健康、生活を守る、医療・介護従事者の社会的責任として、ロシアのウクライナ侵略反対の声を大きく上げ、国際世論を盛り上げる一翼を担ってゆきましょう。同時に私たちは、「平和を守るために必要なことは何なのか」について深く考える必要があります。アフガニスタンに用水路を作る運動をされた、中村哲医師がおっしゃられていた、「軍隊ではなく、他国に攻め入らないことを謳っている憲法九条こそが、私たちを守ってくれていることが、アフガニスタンにいるとよく分かる」という言葉。軍隊には軍隊をではなく、平和憲法を持つ日本だからこそできる国際貢献を、皆さんとともに探ってゆければと思います。

5月には新型コロナウイルス感染症は第7波を迎えると予想されています。私たちはこれまで、「職員の安全を守る」ことを第一義に掲げ、活動を行ってきました。感染予防の行動が極めて重要です。ぜひ、医療・介護のプロとして、求められる行動様式をとっていただくよう、お願いいたします。また、同仁会にはコロナ禍に対応した健康サポートチームもあります。不安な気持ち・体調不良などがあれば、我慢せずにすぐに申し出て下さい。これらのことが皆さんの安全を守ることに繋がります。

そして、皆さんには成長をあせらず、これからの医療人・介護人としての長い人生、ゆっくりと成長していただきたいと思います。患者さん・利用者さん・ご家族から大いに学んでください。同僚とも、ぜひ職種を超えて刺激しあっていたきたいと思います。

皆さんのこれからのご健康と成長を祈念して、私の歓迎のあいさつとさせていただきます。

2022年4月4日

社会医療法人 同仁会
理事長 田端志郎